

## 2011年日本地球化学会第4回評議員会議事録

日時：2011年9月16日8時00分から8時45分

場所：北海道大学地球環境科学研究院 D-201

出席者：海老原会長、吉田副会長、鍵、川口、川幡、下田、鈴木、高橋、瀧上、橘、谷水、谷本、西尾、松枝、丸岡、山中、山本評議員、佐野 GJ 編集委員長、三澤、(次期)板井、岩森、植松、小畑、折橋、原田、日高、平田、益田、南、塚本評議員

欠席者：瀧上、橘、中井、平野、松本、山中評議員、清水次期監事、川幡、角皆、横山次期評議員

新旧評議員の申し送り、引き継ぎ等を行った。

前期(2008-2009年度)評議員会から今期(2010-2011年度)評議員会への申し送り事項について、海老原会長より総括がなされた。

1) IAGC(国際地球化学連合)や Geochemical Society(米国地球化学会)との国際連携を活性化した。IAGCの国内対応体として日本学術会議に設置されている IAGC 小委員会の活動については、強化できなかった(IAGCの国内対応母体としての意義付けができないことに起因)。

2) Goldschmidt 会議における本学会のスポンサーとしての定位置を堅持し、GJ賞の授賞式、ブース展示、参加登録費の割引適用など継続した。また、Goldschmidt 会議でのセッションの提案については、不十分であった。

3) 学会の法人化について、学会の対処方針を明確にし、他学会の情勢や連合内での本学会の位置づけも考慮しながら、検討を進めた。

4) Geochemical Journal の現状と中長期的な展望について議論した。地球化学分野の代表的国際誌としての地位や知名度を一層高める、学会員の投稿を増やす、Web 閲覧者の増加に努める、impact factor を上昇させることについて、具体的な方策を講ずることはできなかった。

5) 「地球化学」の和文誌としての評価・役割を高め、論文の著作権(過去の論文も含めて)を学会で保有するシステムを確立した。また、「地球化学」の電子化(印刷経費の縮小のため)についても長期的視点から検討した。

6) 学会員への特典の維持・拡張を図り、日本地球惑星科学連合との棲み分けを明確にし、現在の会員増加傾向を維持した。

7) 学会 web ページ上での質問応答、年会時のプレス発表、講師派遣など、学会から一般社会への PR を積極的に行った。

8) 冊子体の名簿号を廃止するにあたり、これまで名簿号に合本されてきた「日本地球化学会ハンドブック」について、適宜学会 web site への移植を進め、完了した。

9) 各幹事・委員会への活動経費支給方式の見直しを行い、必要な経費が適時適切に支給される

会計システム構築に着手した。

10) 「地球と宇宙の化学事典」の編集作業を鋭意進めたが、出版には至らなかった。

2012-2013 年度評議員会への申し送り事項

海老原会長から以下の項目が提示された。

- 1) IAGC (国際地球化学連合) や Geochemical Society (米国地球化学会)、European Association of Geochemistry (欧州地球化学連合)、Chinese Society of Mineralogy, Petrology and Geochemistry (中国鉱物岩石地球化学会) との連携を一層強化し、国際的交流を通して会の活動をより一層活性化して欲しい。
- 2) Goldschmidt Conference における本学会の立場 (主催 3 団体の 1 つ) を堅持して欲しい。GJ 賞の授賞式、ブース展示、参加登録費の割引を引き続き継続して欲しい。Goldschmidt Conference での GJ 賞の授賞に併せて、授賞レクチャーをプログラムに組み入れてもらうようにして欲しい。Goldschmidt Conference のプログラム委員に、地球化学会会員を積極的に推薦して欲しい。
- 3) Geochemical Journal の将来的展望を引き続き議論し、会の財政と整合させつつ、論文誌としての発展を期して欲しい。
- 4) 日本地球惑星科学連合、日本化学連合との関係を適宜見直し、地球化学会のプレゼンスを高めて欲しい。
- 5) 名簿号の代わりとなっている Web 情報を、引き続き担当幹事が更新する。

検討事項として、以下の 2 項目が挙げられた。

- 1) JSPS 育志賞、文科省科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞候補者、若手科学賞受賞候補者などの推薦依頼をどうあつかうかを明確に決める。
- 2) 地球惑星連合大会プログラム委員を他の一連の委員とともに、会期の初めにきめておく。プログラム委員の任期は 1 年だが、2 年任期とすると好都合。評議員の中から選ぶ場合、2 年間は評議員から外れることもあるが、評議員である必要はないので、問題にならない。

引き続き、新評議員会構成員で会合を持った。議事に先立ち、構成員の自己紹介を行った。

議事 1: 評議員の追加委嘱について

日本地球化学会役員選出細則第 6 条 3 評議員の追加選出「学会の運営上必要と認めた場合には、会長は評議員会の議をへて評議員を追加委嘱することができる」により、豊田栄会員を追加委嘱したいと吉田次期会長より提案があり、承認された。

議事 2: 新幹事の委嘱について

吉田次期会長より、内諾を得ている次期幹事候補者の紹介があり、委嘱することが認められた。幹事の職務については、前幹事より整理された内容を引き継ぎ、適宜、役割分担を修正して行うこととした。

庶務幹事：豊田 栄、会計幹事：南 雅代、広報幹事：原田 尚美、ニュース幹事：川幡 穂高、企画幹事：平田 岳史、会員幹事：下田 玄

前日の総会において会則の変更が承認されたことに伴い、会誌の編集委員長塚本（GJ）、高橋（地球化学）両次期評議員も幹事会構成員となる。

議事3：その他

3. 1. 幹事会構成員、評議員会構成員の間で連絡を密にして、会務にあたることを確認した。
3. 2. 山本次期副会長より、将来計画委員会に複数のWGをたてること、主に評議員の方に加わっていただくこと、議論は吉田次期会長にもCcをするなどして意思疎通に努めることなどが提案され、認められた。
3. 3. 新幹事メンバーが残り、いくつかの緊急対応案件の確認と、連絡を密にして会務に臨むことを再確認した。